

## 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島県立あさか開成高等学校 】

1 実践テーマ	IV
2 実施対象	全校生（560名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ①教科名（ 総合的な探究の時間 ） ③その他（ 部活動 ボランティア活動 ）
4 目標 （ねらい）	実践テーマである「郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成」を軸に、キリバス共和国が置かれている状況と福島の体験を重ね合わせ、文化や地域の伝統・伝承を守っていくことの大切さを多面的に学ぶ。また、SDGs達成に向け、世界規模の問題をローカルな視点で考え、自分たちができることを考える。
5 取組内容	<p>① 花の甲子園</p> <p>日本文化部では毎年花の甲子園に参加している。震災から10年が経過した節目の年に、福島をテーマに花を生け、オリンピックのブーケに託されたその思いをプレゼンにし、東北地区大会で2位となった。</p> <p>さらに、福島県産の食材・猪苗代湖の水を使用した、和菓子を考案した。地産地消に取り組み、福島の魅力が多くの人に伝わってほしいという願いをこめて作成した。今後和菓子が商品化される予定である。</p>  <p>② 震災復興スタディーツアー</p> <p>12月22日、東日本大震災・原子力災害伝承館を訪問した。その後、請戸小学校や帰還困難区域を見学したり、語り部の話を聴いたりすることで、複合災害の記憶と教訓を継承し、復興・防災・地域産業への理解を深めた。</p>

### ③ フードプロジェクト・ふくしまの食でSDGs

～県産のおいしい食材でふくしまの魅力を伝える風

#### 評払拭活動

「福島県産品を使った料理」を考案するにあたり、自分たちの地域資源や福島県の食材について調査を行った。活動を通して、福島県の美しい自然やおいしい食材、地元の魅力を知るとともに豊かな自然を守るための取り組みやおいしい県産品を一生懸命につくっていらっしゃる生産者・販売されている方の熱い思いに、とても感動した。しかし、震災から10年経過した現在もなお風評被害が残っていることを知り、そこで自分たちにできることは何かを話し合い「高校生が元気に活動すれば地域が元気になり、地域が元気になれば、福島県も元気になる!!」を合い言葉にSDGsの視点も取り入れ、おいしい福島県産の食をPRするため様々な料理コンテストに応募し、新聞をはじめ各種メディアで取り上げていただいた。猪苗代湖清掃活動から猪苗代湖の輝きと安積疏水の恵みや環境保全を学び、「農福連携」体験研修では障がい者就労支援の農園・加工所を訪問した。おいしい農作物を食べてほしいという様々な工夫や製造工程も見学させていただき、「残さ」が肥料になり、その肥料がおいしい野菜を育て、販売ができる食品ループのしくみをはじめ、材料を無駄にしない商品化から食品ロスについても学ぶことができた。さらに地域活性化にも貢献されている取り組みに感銘を受けた。この学びをもとに各種料理コンテストに応募した。(食の甲子園・牛乳乳製品料理コンクール・きのこ料理コンテスト・十勝マルシェ料理甲子園・スマイルフードプロジェクト) 昨年度は、牛乳料理で県知事賞を受賞し、スマイルフードプロジェクトで優勝したレシピが、今年度10月に商品化され『ふくしまプライド。うっ米(まい)たまごスープ』として東北6県で販売されている。また、復興イベントなどで来場者プレゼントに使っていただいた。地域の特産物をよく活かしている点やネーミング、「猪苗代湖の水」の着眼点が素晴らしいと高評価をいただいた。これからも福島県の食の魅力をたくさんPRしていく予定である。



### ④ 地球温暖化最前線国 キリバス共和国について学ぶ

11月25日、1学年講演会において、「国連による『持続可能な開発目標(SDGs)』から考える～私たちにできること～だれ一人取り残さないために～僕の国キリバスからのメッセージ～」と題し、日本キリバス協会代表理事であるケンタロ・オノ氏による講演を開催した。キリバス共和国は地球温暖化による海面上昇で国が沈んでしまう危機に直面しており、その現状を聞くと共に、国が消滅するという事は人々の思い出の場所が

なくなり、人の心も壊してしまうというお話を伺い、地球温暖化がコミュニティや文化に及ぼす影響を知ることができた。

#### ⑤ 男女共同参画社会川柳コンクール

男女共同参画社会とは、性別、先入観にとらわれず一人ひとりが持っている「自分らしさ」を大事にして、みんなが「対等」に活躍できる社会のことです。普段の生活の中で感じたことを川柳にして発信しました。

#### ⑥ 郡山市アイラブロード清掃ボランティア

昨年度から継続して行っている。定期的に清掃することで街がさらにきれいになった。この活動が郡山市に認められて、校門の前にアイラブロードの看板が設置された。また、「せせらぎこみち」が防災時に安全な避難経路になることもわかった。この活動から環境美化の大切さを理解し、「誰でもが使いやすい住みやすいまちづくり」についても学ぶことができた。さらに、部活動単位での参加も広がり、さらに私たちの活動を見ていた桃見台小学校の子どもたちも一緒に公園のごみ拾いをしたいということで、9月よりコラボ清掃を行っている。地域に根差した活動として、今後も継続して行く予定である。



#### ⑦ 猪苗代湖の水環境保全活動

5年前から「水プロジェクト」と題し、安積疏水や本校の水源地である猪苗代湖の水環境保全活動を行っている。私たちの生活を支えてくれる猪苗代湖を誇りに思い、郷土愛を育み、そしてローカルSDGsの実践につなげている。

8月 4日 午前

- ・郡山市湖南町 舟津浜 午後・講演会 翁島小学校
- ・ブンケンさんとゴミ拾い(TV 放映)
- ・猪苗代湖自然を守る会の鬼多見賢先生から「猪苗代湖を知ろう」(講演会)

現状と水質改善のための活動を知る。

8月20日 午前

- ・ヒシ刈り 午後・水環境学習 いなわしろ水族館
- ・水質汚濁の原因となるヒシ回収作業は重労働であり、参加されている方々

のパワーに助けられた。

- ・紙芝居を作成し、地域力と猪苗代湖愛を学ぶ。

9月

- ・SDGs WEEK 活動展示 福島県の誇り・猪苗代湖発信

10月16日天神浜

- ・イベントなどで、多くの人に猪苗代湖の魅力をPR。
- ・漂着水草の回収に初参加

- 10月31日 舟津浜清掃
- 11月 6日天神浜水草回収ボランティア
  - ・水環境センター学習
  - ・猪苗代湖の素晴らしさに気づき、考え、行動することの大切を体感。
- 11月 5日校内活動発表会
- 11月12日 地域の子もたちに猪苗代湖の紙芝居上演
- 11月26日 フォーラム発表
  - ・自分たちの猪苗代湖を自分たちで守るため子どもに紙芝居で伝える。

今後の課題

一人の力では微力であるが、みんなが力を合わせて取り組むことで大きな力となり、継続することで持続可能な未来につながっていくことを学んだ。私たちの誇りである猪苗代湖の水環境保全活動の輪を広げ守っていききたい。

Think globally , act locally



6 主な成果

●活動⑦より

猪苗代湖で駆除されているヒシの実は、かつては人々と共生していた。そのことを踏まえ、持続可能という観点から、猪苗代湖に生息する動植物の多様性を理解させ、ヒシの実を、猪苗代湖を汚す根源という形で駆除するのではなく、かつてのように共生させていくにはどうすればよいのかを考える機会となった。

●活動②④より

キリバス共和国の実情を知るとことで、自分たちがどのように気候変動に関わっているのかを気づかせることができた。また、地域の消滅はコミュニティやその土地に伝わる文化の消失であり、その文化を残すことにどのように関わられるのかを体験させることができた。帰還困難区域を訪れたことや震災を学習することで、キリバス共和国が置かれている状況と自分たちの故郷が置かれている状況を重ね合わせることができた。

●活動①③⑤⑥

コロナ禍の中で、オリンピック・パラリンピック開催のムードを高めていくことは大変であったが、地域の食材の素晴らしさを発見しながら楽しく行うことができ、郷土愛を育むことができた。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>今年度もコロナの影響により、例年行っていた留学生の来校や海外研修ができず、日本の伝統文化や地域について紹介する機会や、交流ができなかった。また、前期は講演会なども実施することができず、外部との接触がなかなかできない中で、毎日行っている部活動の中でできることや、校内でできることを活動の柱として、実践テーマに近づけるような活動にした。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>この状況の中で、特別なことをするのではなく、通常の教育活動の中でできることがあるということ再認識することができた。直接オリパラの競技やアスリートに関わる内容ではなかったが、オリンピズムという観点から、活動を考えた。オリパラ開催の可否が議論になっている中で、あまりムードを高めることを控えながら行える活動にした。もう少し社会的なムードが高まり、コロナも沈静化すれば違った活動ができていたかもしれない。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>オリンピズムの理念を中心に、報告の活動を通し、最終的には平和な社会を築くことのできる人材を育成するような活動を行っていききたい。</p>